

肛門痛と肛門小窩炎

増田医院

増田 和人

肛門小窩炎は肛門痛を伴い、肛門括約筋の緊張が高くなり、その為に排便困難となり、治療を遅らせる事にもなって

、ひいては痔核、裂肛、痔瘻など肛門疾患の原因にもなる疾患と考えている

肛門小窩炎について本邦では1991年の高野と2000年の宮田の報告以降あまりなされてないが、肛門小窩炎は近年増加して来ていると感じているので、当院における肛門小窩炎患者について2011年から2013年の過去3年間において調査した

肛門痛を訴え肛門小窩炎を有する患者(過去3年間)

	2011	2012	2013	total	平均年齢
男性	209	178	163	550	52.3
女性	236	238	194	668	52.3
total	445	416	357	1218	52.3

男女比 1:1.2

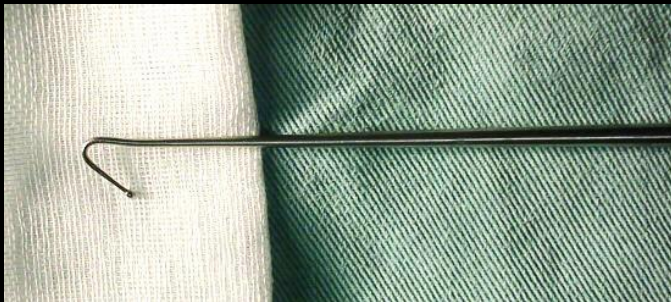
当院を訪れた肛門疾患患者(過去3年間)

	2011	2012	2013	total	平均年齢
男性	404	358	351	1113	57.6
女性	409	384	374	1167	56.8
total	813	742	725	2280	57.2

53.4%

【診断】

- ・罹患部と思われる肛門小窩にクリプトフックをかけて 痛みがあるかどうかで判断した
- ・深い肛門小窩を有するものは痛みを強く訴えることが多い
- ・又、痔核や裂肛患者の中に同様に痛みのある深い肛門小窩を有する者がいた
- ・肛門小窩炎患者の排便には特徴があって、軟便か、軟便と硬便を繰り返す者が多かった



クリプトフック



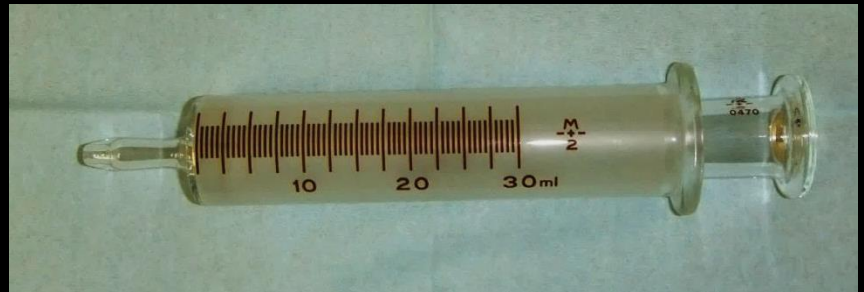
【治療】

- ・肛門小窩炎の治療は比較的単純で排便管理にある
- ・肛門小窩炎患者は軟便傾向にあるが、硬便の者よりも意外に残便が多く、微温湯浣腸で排便するとスムーズに残便が排出されやすい為、治療には微温湯浣腸を利用している

微温湯浣腸の容器



50mlのグリセリン浣腸の空容器



30mlのガラス浣腸器

- ・回数の制限はしていないが、基本的に2～3回を目安にしている

治療としては1週間くらい、朝の排便後にこの微温湯浣腸で排便を行わせることでほとんどの場合は肛門小窩炎は軽快することが多い

便秘で下剤を使用しているケースもあるが、下剤の効き過ぎによる軟便という場合もあり、下剤の使用を制限する場合もある

又微温湯浣腸で何度行ってもすっきりしない場合はグリセリン浣腸を行う場合もあった

炎症を抑えるためにヘモナーゼ錠の服用と排便を促す目的でボラザG坐薬も併用している

肛門小窩炎が長く続いた場合や肛門狭窄を有する場合は
肛門小窩の切開を行っている

痔核や裂肛に肛門小窩炎が合併する場合はその手術以外に
肛門小窩の切開を行っている



カギメス



肛門小窩炎で肛門小窩の切開を行った症例(過去3年間)

手術件数	2011	2012	2013	total	平均年齢
男性	10	12	16	38	47.1
女性	20	18	24	63	47.8
合計	31	30	40	101	47.6

全肛門小窩炎患者の8.3% 男女比 1:1.7

深い肛門小窩を伴った肛門小窩炎は内痔瘻の状態になっている場合も認められ、シートンを追加する事もあった

肛門小窩炎で一度は軽減しても何度も再発する症例が60例あった 肛門小窩の切開を行った場合もあるが、すぐに軽快するので経過を観察している症例が多い

長く再発が続く症例の場合は消化管に炎症などの合併症がないか検索する必要があると思われる

まとめ

- 1, 当院における過去3年間の肛門小窩炎患者について説明した
- 2, 肛門小窩炎は比較的多くみられる疾患でやや女性に多かった
- 3, 原因は軟便が関係していると思われる
- 4, 治療は比較的単純で、微温湯浣腸を行う事で治癒することが多い
- 5, 慢性化したときは肛門小窩の切開が必要になることがある